

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間令和3年7月30日
室蘭開発建設部 広報官

報道機関各位

日高自動車道（静内～三石間）の計画について

地域の意見聴取（第2回）を実施します

～皆様の御意見をお聞かせください～

室蘭開発建設部では、日高自動車道（静内～三石間）の計画について、地域の皆様や道路を利用される方からの御意見を道路計画に反映するため、アンケート及びヒアリング調査を行いますので、御協力をお願いします。

＜地域の意見聴取概要＞

静内～三石間のルート検討に当たり、重視すべき点や配慮すべき点についての御意見をお伺いします。

（１）アンケート調査

調査票：新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町の各自治体にお住まいの各世帯に調査票を配布いたします。また、4自治体の役場及び道の駅「みついし」に調査票を備え付けます。

回答方法：①返信用はがきによる回答

- ・最寄りの郵便ポストへ
- ・新ひだか町役場、浦河町役場、様似町役場、えりも町役場及び道の駅「みついし」の回収ボックスへ

②インターネットによる回答（室蘭開発建設部HPからアクセスできます）

- ・URL https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/douro_keikaku/a00ihh0000002v6m.html



実施期間：令和3年8月30日（月）～ 令和3年9月24日（金）まで

（２）ヒアリング調査

関係自治体や関係団体、事業者の皆様にインタビュー形式のヒアリングを実施します。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部 道路計画課

課長 仁平 陽一郎 電話 0143-25-7046（ダイヤルイン）

道路調査官 根本 信二 電話 0143-25-7046（ダイヤルイン）

室蘭開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/>

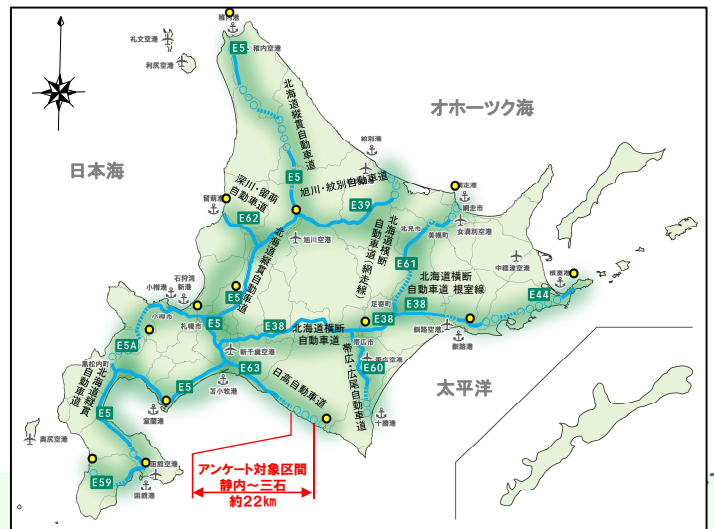


アンケート配布地域及び回収ボックス設置箇所

設置場所	
町役場	新ひだか町役場(静内庁舎・三石庁舎)、浦河町役場、様似町役場、えりも町役場
道の駅	道の駅「みついし」

凡 例	
開 通 区 間	
事業中区間	
調査中区間	
総合振興局 振興局	

凡 例		
アンケート 配布地域		
回収ボックス 設置場所	町役場	
	道の駅	



日高自動車道（静内～三石間）における 道路計画に関する意見聴取（第2回）

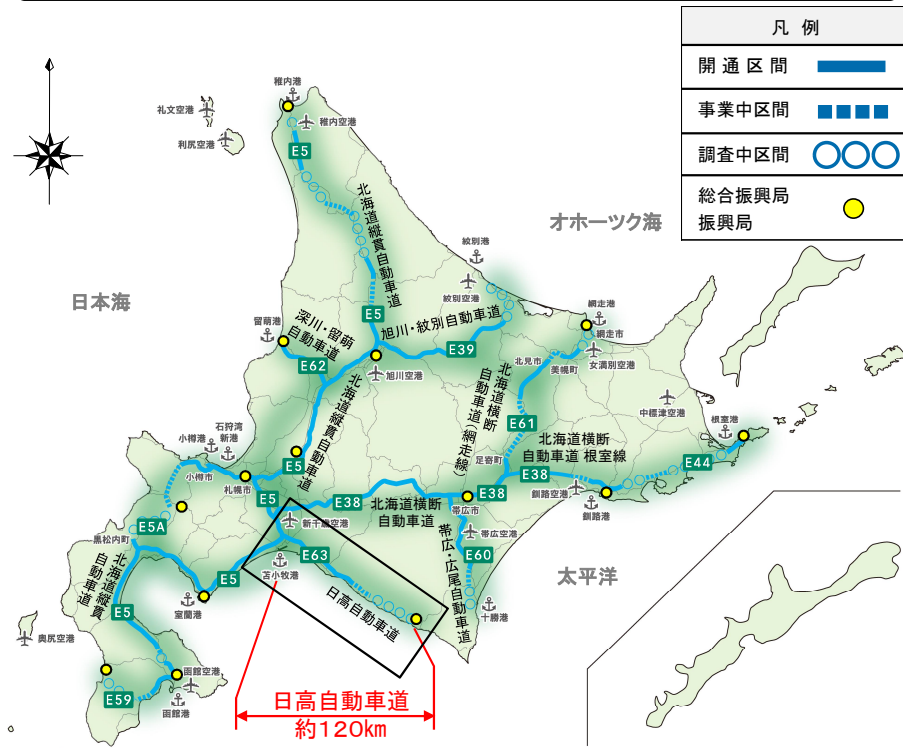
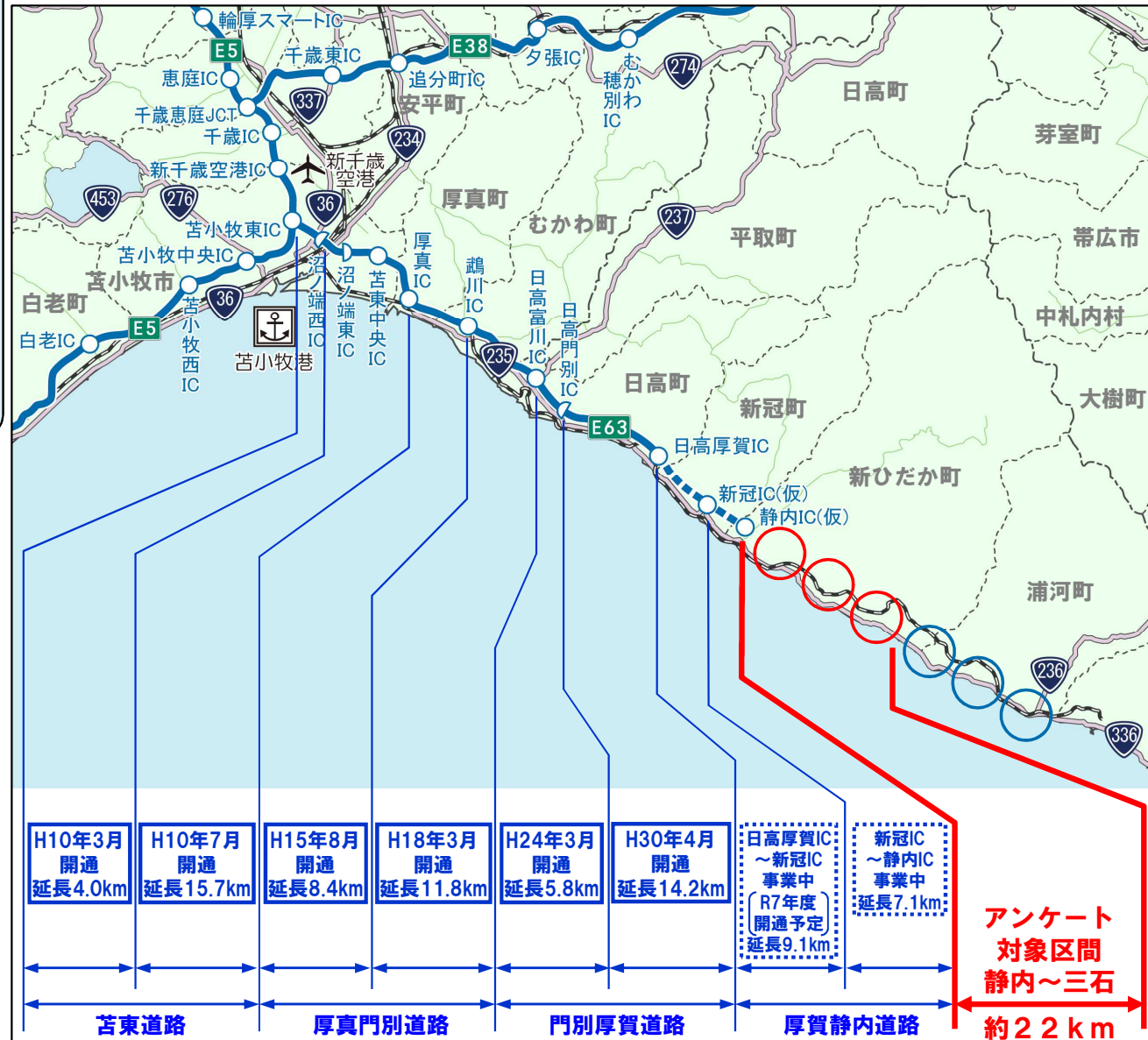
日高自動車道は、苫小牧市を起点として厚真町、むかわ町、日高町、新冠町、新ひだか町を經由し、浦河町へ至る延長約120kmの一般国道の自動車専用道路です。

本アンケートは、日高自動車道のうち、新ひだか町静内～三石間の計画検討にあたり、計画づくりの初期段階から地域の皆様へ情報提供を行うとともに、広くご意見をお聞きし、それを計画に反映していただくための取組として実施するものです。

昨年2月に実施しました第1回意見聴取では、地域の皆様が日頃感じている地域の課題や、必要な道路機能についてご意見を頂きました。ご協力ありがとうございました。

今回の第2回意見聴取では、ルート検討にあたり重視すべき点や配慮すべき点についてお聞きしますので、本アンケートにご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■このアンケートでは、静内～三石間の計画についてお伺いします。

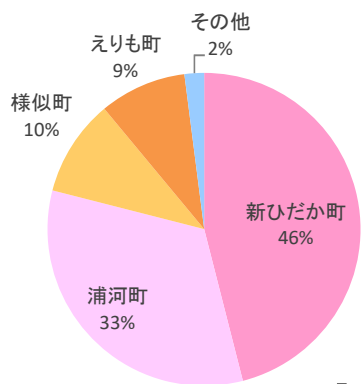


第1回アンケート調査の結果

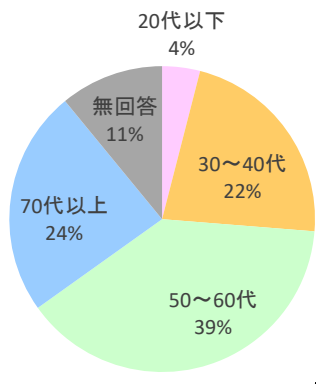
アンケートには、地域の住民や道路を利用される方などから、5,803件の回答をいただきました。

回答者の居住地、年齢、運転頻度、静内～浦河間の利用頻度、利用目的

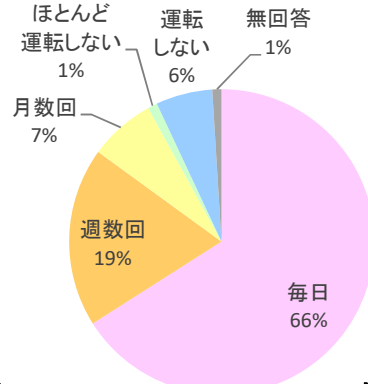
▼居住地



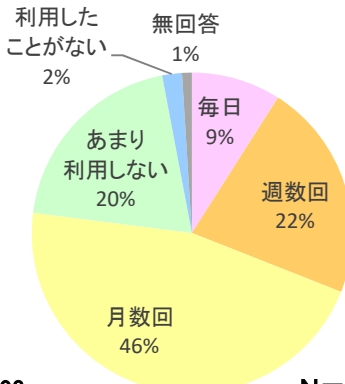
▼年齢構成



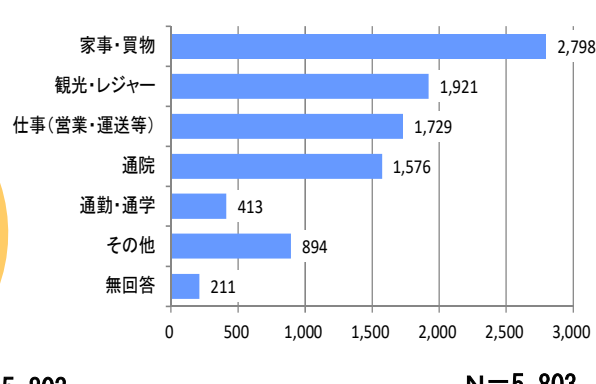
▼自動車の運転頻度



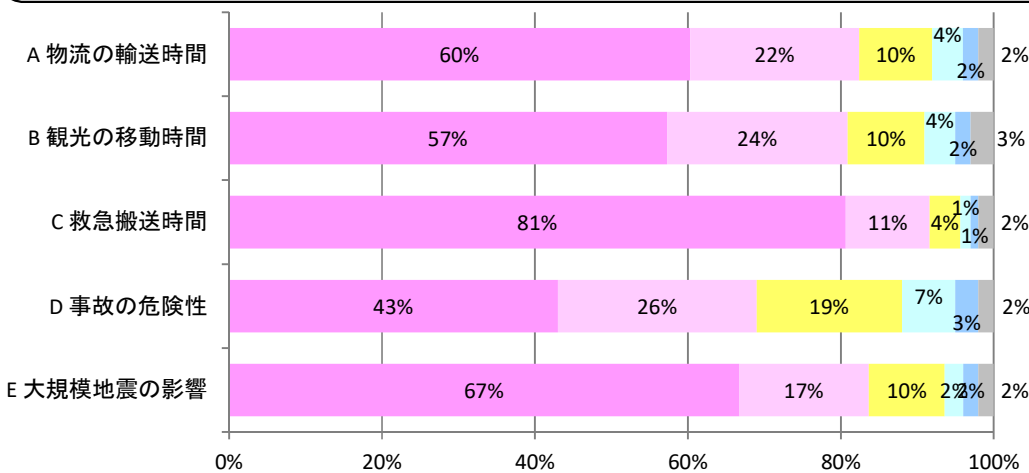
▼静内～三石間の利用頻度



▼静内～三石間の利用目的

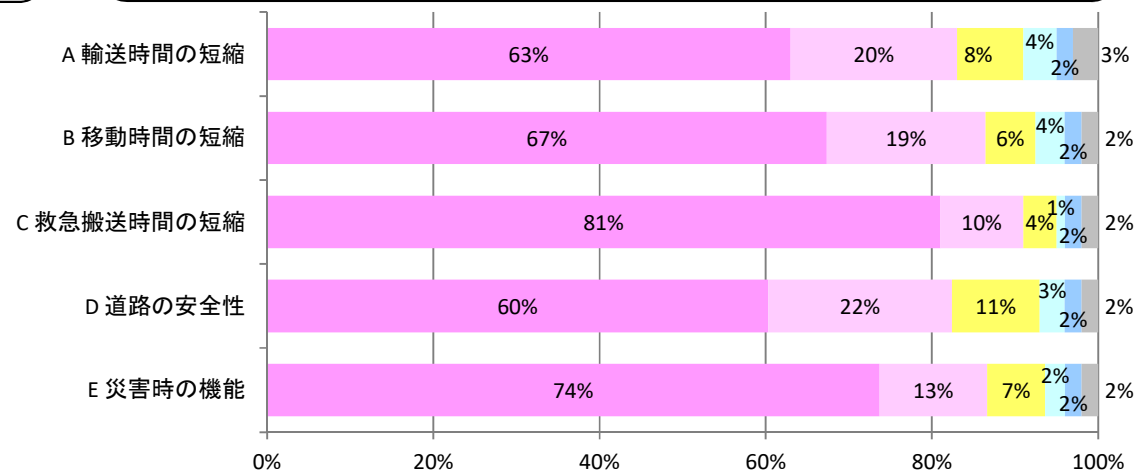


将来を見据えた地域の課題



将来を見据えた地域の課題は、特に救急搬送時間や大規模地震時の影響が課題であるとの回答をいただきました。

静内～三石間に必要な道路機能



静内～三石間においては、特に医療拠点への速達性や災害時に機能する道路が必要であるとの回答をいただきました。

第1回アンケート調査の結果

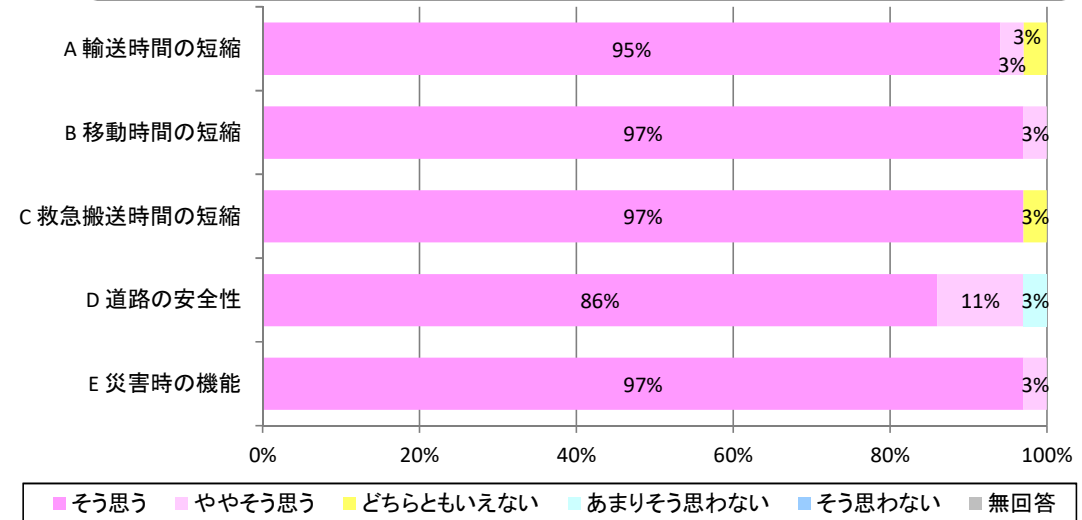
ヒアリング調査では、沿線自治体や各団体から37件の回答をいただきました。

将来を見据えた地域の課題

項目	自治体	商工会議所 商工会	農協・漁協 森林組合	運輸	バス・ 観光	病院・自衛隊 消防
A. 物流の輸送時間	○	○	○	○	○	○
B. 観光の移動時間	○	○	○	—	○	○
C. 救急搬送時間	○	○	○	—	○	○
D. 事故の危険性	○	○	○	—	○	○
E. 大規模地震の影響	○	○	○	○	○	○

将来を見据えた地域の課題は、特に物流の輸送時間、大規模地震時の影響が課題であるとの回答をいただきました。

静内～三石間に必要な道路機能



静内～三石間においては、特に物流及び観光地や医療拠点への速達性、災害時に機能する道路が必要であるとの回答をいただきました。

第1回アンケート調査・ヒアリング調査のまとめ

○多くの道路関係者や各団体の皆様が地域の課題に対して道路整備の必要性を感じています。

○特に、物流拠点・観光拠点・医療拠点へ迅速に移動できる道路、津波災害時に避難や緊急輸送路として利用できる道路に対して多く回答を頂きました。

頂いた意見を踏まえ政策目標を設定しました

静内～三石間に必要とされる政策目標

軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の安定性や安全性の向上

地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上

大規模地震発生時の避難・復旧活動を支援

道央圏等との広域観光連携に向けた速達性の向上

課題解決のための対策案

○第1回意見聴取で地域の課題、静内～三石間に必要な道路機能について確認したことから、政策目標の達成に必要な機能と配慮すべき事項等を踏まえ、以下のような3つの対策案を設定。

政策目標

軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の速達性・安全性の向上

地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上

大規模地震発生時の避難・復旧活動支援

当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上

政策目標達成に必要な機能

- ・空港・港湾等の物流拠点への速達性の高い道路
- ・市街地を回避し、安全・円滑に輸送できる道路

- ・医療拠点である苫小牧市への速達性の高い道路
- ・搬送時の安定性が高い道路

- ・津波災害時に避難・支援ルートとして機能する道路
- ・代替性があり、複数の経路選択ができる道路

- ・観光地や空港へのアクセス性が高い道路

配慮すべきポイント

・地域への影響 ・環境への影響 ・工事中の影響 ・経済性

3つの対策案と整備イメージ

【案①】別線・市街地アクセスルート

別線整備により津波浸水予測範囲を回避し、市街地へのアクセスにも配慮したルート



【案②】別線・最短ルート

別線により津波浸水予測範囲を回避し、最短ルートで連絡するルート



【案③】別線・一部現道改良・市街地アクセスルート

津波浸水予測範囲のうち、低浸水区間は道路の嵩上げにより現道を改良するルート



凡 例

- : 市街地・集落
- : 現道
- : 別線整備
- : 現道改良

対策案のコントロールポイント

○各対策案検討のコントロールポイントとしては、市街地の公共施設や地域産業である軽種馬牧場、津波浸水エリアの影響を極力回避しつつ、市街地へのアクセス性に配慮。



回避すべき施設等
(社会的状況による要因)

- ・市街地（都市計画区域）や集落、軽種馬牧場
- ・公共施設（役場、病院、学校、福祉施設、自衛隊施設等）
- ・史跡・遺跡

配慮すべき事項
(自然環境)

- ・自然環境（自主アセス結果による希少種）
- ・津波浸水予測範囲、地すべり箇所

対策案の比較

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から3つの対策案を設定。



案① 別線・市街地アクセスルート

(津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、市街地へのアクセスにも配慮したルート)

- ・ルート帯が現国道や市街地から近傍で、アクセス性や津波災害時の代替性に優れる
- ・地形に沿った線形とすることで、構造物が少なく比較案での事業費は安価
- ・比較案の中で延長が長くなるが自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい

案② 別線・最短ルート

(津波浸水予測範囲を平面的に回避しつつ、最短ルートで連絡するルート)

- ・市街地(東静内、三石)から離れており、アクセスに時間を要し、津波災害時においても迅速な救援、救助活動に影響
- ・山地部を構造物を使用した最短での線形とするため、構造物延長が長く、比較案での事業費は高価
- ・比較案の中で延長が短く、自動車専用道路なのでサービス速度は確保しやすい

案③ 別線・一部現道改良・市街地アクセスルート

(津波浸水予測範囲を縦断的に回避しつつ、現道を部分的に活用し、局所的な改良を行うルート)

- ・ルート帯が現国道や市街地から最も近傍で、アクセス性に優れているが、一部現道を改良するため部分的に代替路は確保されない
- ・低浸水域区間は一部現道改良するが、津波対策費が高額のため、比較案での事業費は中位
- ・一部現道改良となるため、速達性は比較案の中で劣る

対策案の比較表

対策案の考え方			【案①】 別線・市街地アクセスルート	【案②】 別線・最短ルート	【案③】 別線・一部現道改良・市街地アクセスルート
整備イメージ					
区間延長			約 2 1 k m（自動車専用道路）	約 2 0 k m（自動車専用道路）	約 2 1 k m（現道改良+自動車専用道路）
政策目標	軽種馬産業や農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性の向上	物流拠点への速達性	・日高地域から主要物流拠点である函館港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果大きい（17分短縮※）	・日高地域から主要物流拠点である函館港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果大きい（18分短縮※）	・日高地域から主要物流拠点である函館港、苫小牧港、新千歳空港への時間短縮効果が小さい（15分短縮※）
		輸送時の安定性	・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所	・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所	・速度や安定性低下を招く市街地等の回避 ・信号交差点の回避 17箇所→0箇所
		輸送時の安全性	・生活交通と通過交通を分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避	・生活交通と通過交通を分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避	・生活交通と通過交通を極力分離 ・市街地等の事故多発箇所を回避
	地域医療サービスの向上に向けた速達性・安定性の向上	高次医療施設への速達性	・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が大きい（新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前：52%⇒整備後：64%）	・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が大きい（新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前：52%⇒整備時：64%）	・苫小牧市への60分圏カバー人口の増加が小さい（新ひだか町の60分圏カバー人口率 静内～三石 整備前：52%⇒整備時：58%）
		救急搬送の安定性	・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減	・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減	・速度や安定性低下を招く信号交差点、線形隘路区間を回避し、搬送患者の負担を軽減
	大規模地震発生時の避難・復旧活動支援	津波浸水予測範囲の回避	・津波浸水予測範囲を極力回避しつつ、一部区間において津波高さを考慮した道路構造とすることにより津波浸水予測範囲を回避	・津波浸水予測範囲をルートにより回避	・津波浸水予測範囲を別線区間においては極力回避し、現道改良区間においては、現道嵩上げ等により津波浸水予測範囲を回避
		代替路の確保	・全線別線にて整備することで代替路の確保が可能	・全線別線にて整備することで代替路の確保が可能	・一部現道を活用するため部分的に代替路が確保されない
		啓開・復旧活動	・市街地から近傍にルートが位置するため、啓開必要延長が短く、迅速な復旧・救援活動が可能	・市街地から遠隔にルートが位置するため、啓開必要延長が長く、迅速な復旧・救援活動に影響	・市街地から最も近傍にルートが位置し、現道改良区間もあるため、啓開必要延長が最も短く、迅速な復旧・救援活動が可能
		避難活動の支援	・市街地から近傍にルートが位置するため、避難活動の支援（道路空間の緊急避難所としての開放）が期待できる	・市街地から遠隔にルートが位置するため、避難活動の支援（道路空間の緊急避難所としての開放）はあまり期待できない	・市街地から最も近傍にルートが位置するため、迅速な避難活動の支援（道路空間の緊急避難所としての開放）が大きい期待できる
	当該地域と道央圏・十勝圏の広域観光連携に向けた速達性の向上	交通拠点からの速達性	・アクセス改善効果大きい（17分短縮※）	・アクセス改善効果大きい（18分短縮※）	・アクセス改善効果が小さい（15分短縮※）
配慮すべき事項	地域への影響	沿道家屋への影響	・郊外部を通過するため、住宅地への影響が小さい	・郊外部を通過するため、住宅地への影響が小さい	・市街地付近を通過する際は、沿道家屋への影響を極力回避するが、他案よりは影響がある
	環境への影響	自然環境の保全性	・山地部を通過するが、地形に沿った線形とすることで地形改変面積を抑制することが可能	・山地部を通過するが、トンネル延長が長い場合、切土による地形改変面積を抑制することが可能	・主に山地部を通過するが、地形に沿った線形としつつ、一部現道を活用することで地形改変面積を抑制することが可能
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・山地部の別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・山地部の別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・現道改良区間は、影響が大きく通行規制が必要
	経済性	経済性・概算事業費	・地形に沿った線形とすることで、構造物が少なく経済性に優れる 約 7 2 0 ～ 8 8 0 億円	・津波浸水予測範囲を迂回し最短ルートで連絡するが、構造物延長が長く経済性に劣る 約 9 4 0 ～ 1, 1 4 0 億円	・地形に沿った線形とし、一部現道を活用するが、現道の津波対策費等が高額となるため、経済性は中位 約 8 6 0 ～ 1, 0 6 0 億円

※上記の時間短縮等の数値については、概略延長に対して設計速度を用いて試算した値であり、今後の詳細なルート・構造検討や接続位置等により変更となる場合があります。

日高自動車道（静内～三石）に関するアンケート

回答は返信用はがきに記入し、令和3年9月24日(金)までに郵便ポストに投函してください。

質問1 対策案（ルート帯案）の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか？

次のA～Fの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
A 物流拠点（新千歳空港、苫小牧港等）への所要時間短縮	1	2	3	4	5
B 苫小牧市の医療拠点への搬送時間の短縮	1	2	3	4	5
C 信号箇所、急カーブ、事故危険区間の回避	1	2	3	4	5
D 津波浸水区間の回避と災害時の代替路の確保	1	2	3	4	5
E 災害時の迅速な啓開・復旧活動と避難時のアクセス性	1	2	3	4	5
F 札幌市や新千歳空港から観光地への移動時間の短縮	1	2	3	4	5

質問2 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A 家屋や施設など地域への影響が小さいこと	1	2	3	4	5
B 軽種馬牧場や牧草地、山地部など自然環境への影響が小さいこと	1	2	3	4	5
C 工事中の交通規制による影響が小さいこと	1	2	3	4	5
D 建設に要する費用が安いこと	1	2	3	4	5

質問3 インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことに配慮すべきと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A 市街地から円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5
B 出荷施設等の物流拠点に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5
C 役場や自衛隊等の防災拠点に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5
D 道の駅など主要な観光拠点に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5

質問4 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

回答は返信用はがきに記入願います

アンケートの回答方法、実施期間

- ・回答は同封の郵便はがきにご記入ください。
- ・回答用の郵便はがきは、切手を貼らずに最寄りの郵便ポストへ投函して下さい。
- ・インターネットによる回答も可能になっておりますので、下記アドレスからアクセス願います。

日高自動車道（静内～三石間）道路計画に関する意見聴取 Web回答用ページ

URL https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/douro_keikaku/a00ihh0000002v6m.html

※室蘭開発建設部ホームページからもアクセス可能です。



アンケートの記入例

郵便はがき

料金受取人払
室蘭局承認
31
0 5 1 8 7 9 0

北海道 室蘭市 入江町1番地14

室蘭開発建設部 道路計画課

差出有効期間 日高自動車道（静内～三石間）
令和3年10月 道路計画に関する意見募集係 行
31日まで
(切手不要)



■あなた自身のことについて（記入または該当する番号に○）

住所 〒000-0000 北海道 日高 市 郡 新ひだか 町 村

性別 ①男性 ②女性 年齢: 50 歳代

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業
⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業
⑫無職 ⑬その他 ()

■自動車を運転する頻度を教えてください（該当する1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■国道235号静内～三石間の利用頻度を教えてください（該当する1つに○）

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④あまり利用しない ⑤利用したことがない

■静内～三石間の主な利用目的を教えてください（該当する全てに○）

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事（営業・運送等）
⑤観光・レジャー ⑥その他 ()

■前回の第1回アンケートに回答しましたか（どちらかに○）

①回答した ②回答していない

日高自動車道（静内～三石間）第2回アンケート 回答欄

質問1. 対策案（ルート帯案）の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか？

以下のA～Fの項目について、該当するもの1つに○をつけてください	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
A.物流拠点への時間短縮	①	2	3	4	5
B.医療拠点への時間短縮	1	②	3	4	5
C.事故危険区間の回避	1	2	③	4	5
D.代替路の確保	1	2	3	④	5
E.迅速な啓開・復旧	1	2	3	4	⑤
F.観光地への時間短縮	①	2	3	4	5

質問2. 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

以下のA～Dの項目について、該当するもの1つに○をつけてください	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A.地域への影響	①	2	3	4	5
B.自然環境への影響	1	②	3	4	5
C.工事中の影響	1	2	③	4	5
D.建設に要する費用	1	2	3	④	5

質問3. インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことに配慮すべきだと思いますか？

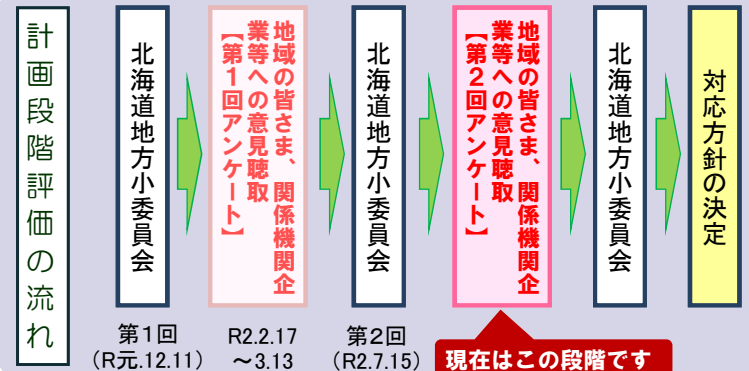
以下のA～Dの項目について、該当するもの1つに○をつけてください	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A.市街地からのアクセス	①	2	3	4	5
B.物流拠点へのアクセス	1	②	3	4	5
C.防災拠点へのアクセス	1	2	③	4	5
D.観光拠点へのアクセス	1	2	3	④	5

質問4. その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

■アンケートは「計画段階評価」審議の参考意見となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、計画段階評価の取組を導入しています。

これは、道路の整備方針を地域の声（地域の皆様、道路利用者、関係団体）を聞きながら、第三者委員会によって審議するものです。



アンケートについてのお問い合わせ先

<調査主体>

北海道開発局 室蘭開発建設部 道路計画課

日高自動車道（静内～三石間）

道路計画に関する意見募集係

〒051-8790 室蘭市入江町1番地14

電話 0143-25-7046

安全で快適な地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしております。



国土交通省



本調査は、日高地域の道路計画について地域にお住まいの皆さまや道路利用者のご意見を広くお聞きすることを目的とするものです。そのため、回答用の郵便はがきに記入されたことは、この目的以外には使用いたしません。

回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。（法令により開示を求められた場合を除きます）